

日モンゴル外交関係樹立45周年祝賀レセプション

(2月10日、モンゴル外務大臣主催)

大使挨拶

平成29年2月10日

バトツェツェグ外務副大臣閣下、
御列席の皆様、

まず初めに、ムンフオルギル外務大臣に対し、今晚、日本モンゴル外交関係樹立45周年祝賀レセプションをかくも盛大に主催して頂いたことに感謝申し上げます。大変光栄に存じます。また、ご列席の皆様におかれましてはお忙しい中この栄えある機会にご参加頂いたことに対して御礼申し上げます。

45年間というのは、様々な紆余曲折を伴う歴史の期間であると思います。今から45年前、私達の先駆者が日本モンゴル間に外交関係を樹立することを決めた時、この両国が、今日のように、かくも密接な絆、お互いの親しさを育むまでに到るとはあまり想像しなかったのではないかと思います。

昨年7月の安倍総理の3度目のウランバートル訪問に象徴されるように、日本はモンゴルとの関係を重視しています。民主主義などの基本的価値観を共有し、地域の平和と繁栄を促進することについて共通の関心を有する両国は、戦略的パートナーシップを構築しています。日本がモンゴルの自立的な発展を支援することに強い意思を有するのもそのためであります。

私は着任してから2ヶ月近くの間、日本が現在取り組んでいる多くの開発プロジェクトを視察して参りました。例えば、日本モンゴル教育病院、新ウランバートル国際空港、第4火力発電所などです。これらのプロジェクトは全て、モンゴルの国家的発展に非常に大きな意味を持つものであります。その一方で、私達は、人々の身近な利益に役立つ学校修繕、病院の

改善といった、500件を超える草の根プロジェクトを全国各地の地域レベルでこれまで実施して参りました。

日本モンゴル二国間関係についての大きな特徴は、それが、議会から地方自治体、教育、学術から芸術、文化、スポーツ、観光といったあらゆる分野に亘り、両国において極めて広範な層の支援を受けていることです。この点で、モンゴルの方々が日本の相撲ファンと一緒にあって、稀勢の里の19年ぶりの日本出身横綱の誕生を歓迎したことは非常に有り難いことです。

近く、エンフボルド国家大会議議長が我が国衆議院議長の招待により日本を訪問される予定です。また、両国の間で互恵的な関係の一層の深化を目指した新たな行動計画が策定されることが期待されています。

私が今申し上げた極めて良好な両国間関係は、長年にわたる日本とモンゴルの人々による貴重な努力と強いコミットメントの結果であると思います。本日の行事を真のお祝いの場となるように今日まで尽力して頂いた全ての方々に改めて御礼申し上げます。

(了)